

けんぱくものしりシート

ヒメボタル



博物館には大きな模型のヒメボタルがいて、いつもみんなの人気者です。

普段は小さくて見られない虫の体を、さわりながら観察してみましょう！

羽 オスは飛べますが、メスは後ろばねがないため飛べないのが特徴です。



目 (=ホタルの光センサー！)
 オスはメスの光を探するため、まるく大きい目を持ちます。
 ※夜に活動するホタルは「光」でお話するため、目や発光器が大きいです。



発光器
 夜に活動するホタルです。オスとメスが光で呼び合います。おなかの先が0.4秒間隔で黄色く光ります。



胸の色
 赤色で、半だ円形の黒い印があります。



二戸市折爪岳産ヒメボタル『革製』拡大模型 (オス)

触角 (=ホタルの匂いセンサー！)
 短く細い触角を持ちます。
 ※一方、昼に活動するホタルは「光」よりも「匂い」でお話をするため、触角が長く大きいです。

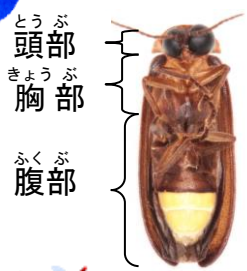


昆虫の体 ~くぐっておなかを観察してみよう！~

特徴① 体が「頭・胸・腹」の3つに分かれる

特徴② 胸部に「6本のあし」がある

特徴③ 胸部に「4枚のはね」がある (ないこともある)



ヒメボタル★データ



ヒメボタル
(オス)

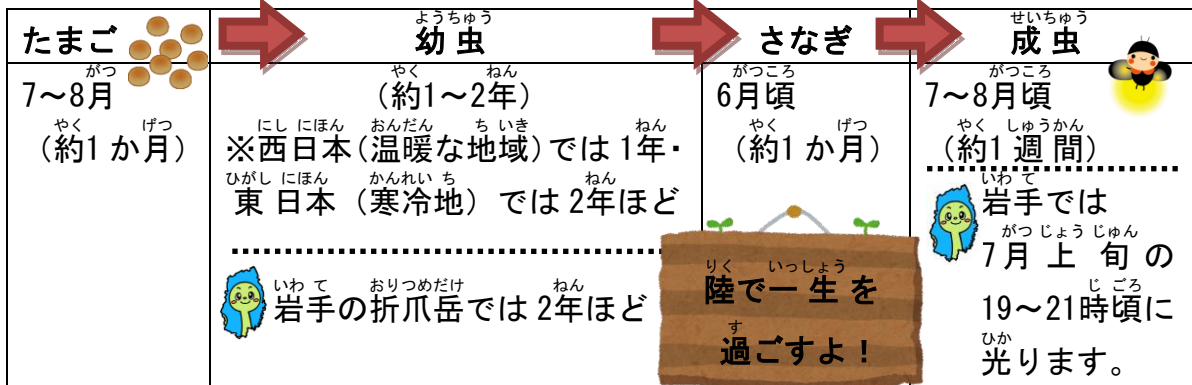
【**体長**】約6~9 mm (メスはオスよりやや小さい)

【**食べ物**】幼虫：小さな陸の巻貝 (オカチョウジガイ・キセルガイなど)

成虫：何も食べず、水をなめるだけ

【**見られる場所**】本州・四国・九州

※岩手では奥羽山脈・北上山地に広くいます (二戸市折爪岳・雫石町網張など)



※ヒメボタルは地域によって、体の大きさや見られる時期・活動時間などに違いがあります。

ホタルは水辺の虫? 陸の虫?

実は、世界中にいる約2000種のホタルのうち
幼虫時代を水中でくらすのはゲンジボタルと



ヘイケボタルの他に数種だけです。他はヒメボタルのように陸で一生活を過ごし、森林や湿地、草原など様々な場所に生息しています。

ホタルがすむ環境は、自然が安定していて、人間が生活する上でも豊かな人里であることを物語ります。ゲンジボタルとヘイケボタルは「水辺の番人」、ヒメボタルは陸の「森や林の番人」ともいえる、大切に守っていききたい虫たちなのです。

参考 『陸のいきもの 光るいきもの』 くもん出版 2015年

『折爪岳周辺県立自然公園内におけるヒメボタルの生息等調査事業報告書 平成25年度~平成26年度』
折爪岳振興協議会 2015年 他

来月(6月)の
けんぱくものしりシートは
体験学習室-16だよ!

おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。

※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。